

リウマチだより

VOL.14

2025 年 12 月 1 日発行



リウマチ科みやもと 院長 宮本茂輝

〒526-0034 滋賀県長浜市弥高町 269 番

TEL : (050)1726-0761 / FAX : (0749)53-3877

URL : <https://rheumatoid-arthritis-miyamoto.jp>



↑
ホームページは
こちらか

♥ 滋賀でも東京と同じレベルのリウマチ診療を提供する ♥

今回は昨年(2024)の 12 月以来、約 1 年ぶりにリウマチだよりを発刊します。どのような内容にしようかと思案した結果、まずは私の思いから語ろうと思います。

我がクリニックの院内には、「**滋賀でも東京と同じレベルのリウマチ診療を提供する！！**」という「**院長の宣言**」を掲げています。メトトレキサート (MTX) の皮下注射剤や生物学的製剤 (BIO) そしてその後続品 (バイオシミラー) や JAK 阻害薬の登場により、我々リウマチ専門医は多くの治療選択肢を関節リウマチ (RA) 患者さんに提示することができるようになりました。



しかしながら、そのような時代にも関わらず、未だに漫然とグルコルチコイド (GC : ステロイド) が投与され、適切な治療選択肢の提示さえ受けたことのない患者さんがおられます。果たしてそれは誰のせいなのでしょう？

スマホ一つで多くの情報を瞬時に得ることができるこの時代において、自ら疾患のことや薬のことを調べず、処方される薬剤を何も考えずにそのまま内服している (そのほとんどは内服している薬の名前も言えません) その患者さんにも責任はあるでしょう。自らの疾患と向き合う姿勢があればそのようなことにはならないはずですから。

一方で、医師側の責任はより大きいと言えます。それは、RA 診療においてグルコルチコイド (GC : ステロイド) は、「**早期かつ csDMARD 使用 RA に必要最小量を投与し、可能な限り短期間 (数か月以内) で漸減中止する。再燃時などに使用する場合も同様である。**」(日本リウマチ学会 関節リウマチ診療ガイドライン 2024 改定) と述べられており、漫然と投与してはいけない薬剤だからです。

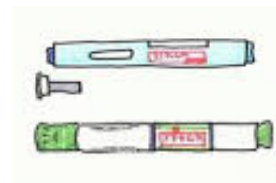


GC は速効性がありまた鎮痛効果が高いため、使用法を誤ると処方医と患者がともにそれに依存してしまいます。RA における GC 投与は治療強化の意思決定を先延ばしにしているに過ぎない、RA 治療をごまかしているという認識を医師がしっかりと持つ必要があります。GC を投与せざるを得ない状況であったとしても、抗リウマチ薬の提案を同時に行う必要があるのです。

ここでは GC を例に挙げましたが、MTX の内服による嘔気強い方にはその副作用を軽減できる可能性がある MTX 皮下注への変更や他の従来型合成抗リウマチ薬 (タクロリムス・イグラチモド・サラゾスルファピリジン・ブシラミンなど) への変更を提案します。生物学的製剤も MTX 併用もしくは非併

用で提案する薬剤が異なります。生物学的製剤は高額な薬剤のため手が出ないと言われる方がおられますが、そのような場合にはより安価である後続品（バイオシミラー）を提示します。注射がどうしても嫌で生物学的製剤が使用できない方には JAK 阻害薬も選択肢です。

このように、患者さん一人一人の併存症・合併症や経済面などを考慮し、そのニーズに合った治療は何かと模索するのが我々リウマチ専門医の役割です。きちんとリスク・ベネフィットを説明した上で、これらの治療選択肢を複数提示すること・・・リウマチ専門医として当たり前のことを当たり前にやっていくと毎日の診療前に必ず私は誓ってから診療を始めます。そして終業後には、一日の診療を無事に終えられたことに感謝すると同時に自らの至らぬ点を反省するのです。



😊 ブログをやっています 😊



2022 年 6 月からブログを始めました。当院のホームページから閲覧することが出来ます。当初はリウマチ患者さん向けに RA の疾患のことや薬物治療を中心に書いていましたが、最近は特に経営者目線で日々考えたことを書いています。自らの生きた証として残している意味合いが大きいです。1 年前や数ヶ月前の自分が抱いた未来の立ち位置の上にいるのか下にいるのか？牛歩であっても成長できればそれでよいと思っています。

🍷 余談：日本ソムリエ協会の資格を取得しました 🍷

昨年、日本ソムリエ協会の SAKE DIPLOMA を取得し、今年は、SAKE DIPLOMA INTERNATIONAL を取得しました。どんな料理にも寄り添ってくれる日本酒ですが、ワインと同じようにペアリングを考えるとより日常が幸せになります。

最近ですと、さつまいものレモン煮に白麹を使った日本酒を合わせてみました。日本酒では通常黄麹が使われます。焼酎で使用される白麹を取って使用した日本酒では、クエン酸が産生されるため、それがレモン煮と「同調」を生むのです(これは完全なる私の私見ですので、間違っていればご指摘ください)

日本酒を含め、お酒がただ酔うための道具というのは非常に勿体ないと感じます。日常診療と日本酒のテイスティングやペアリングには一見接点がないように思えます。しかし、五感を働かせるという点は共通です。私は、日本酒というものを日常診療のレベルを磨くためのトレーニングと位置付けています。

(4 つのグラスに注がれたものはすべて日本酒です。熟成によりイエロー、ゴールド、トパーズ、オレンジ、ブラウンへ変化します)



【編集後記】



「いつも、リウマチだより、読んでるよ!」「最近、リウマチだより、ないの?」といったお声をいただく事が多く、発刊を心待ちにしてくださっている事を、大変嬉しく思っております。今回は、当院院長の『人となり』をより多くの先生方に知っていただける内容となりました。次回からは、さらにパワーアップした内容をお届けしたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。